警　防　上　の　効　果

ここでは広域化により、大東市と四條畷市の境界がなくなったことによる現場到着時間の短縮や出場車両の増加による初動体制の強化など、警防上の効果を紹介します。

（１）災害活動体制の強化

① 出場車両の増加による初動体制の強化

広域化前は、大東市３署所、四條畷市２署所で、それぞれ当該市で発生した災害に対応していましたが、広域化後は、第１出場で５署所のうち災害現場に近い４署所が、大東市及び四條畷市で発生したひとつの災害に対応するため、災害初期の初動段階で消防力を注ぎ込むことが可能となり、被害の拡大防止に止に繋がっています。

② バックアップ体制の強化

前述した初動体制後に、消防力の増強が必要となる場合は、第２出場で残りの署所から出場させることができるようになり

また、同時に別の災害が発生した場合でも、第２出場部隊で対応することが可能となりました。さらには職員総数が増えたことで、非常招集（災害発生時に非番日や公休日の職員を呼び集めること）体制が充実するなど、バックアップ体制が強化されました。

広域化前後の建物火災の出場体制の一例

広域化前(大東市)		広域化前(四條畷市)		広域化後(大東四條畷)			
第1出場車両	台	第1出場車両	台	第1出場車両	台	第2出場車両	台
指揮車	1	調査車	1	指揮車	1		
ポンプ車	3	ポンプ車	3	ポンプ車	4	ポンプ車	2
救助車	1	救助車(乗換)		救助車	1		
救急車	1	救急車	1	救急車	2		
				高所作業車	1		
合計	6	合計	5	合計	9		2

※広域化前は、両市ともに１つの火災に対応しているときは、残留ポンプ隊がなかったため、同時に２つの災害が発生したときは、非常招集や隣接消防本部への応援要請などで対応していました。

③ 現場到着時間の短縮

高機能消防指令センターのＧＰＳ機能により、災害地点から最も近い署所の消防車や救急車を出場させることができるようになり、効率的な運用が可能となりました。特に東部山間部では、市域の境界がなくなったことで大幅な現場到着時間の短縮が図れています。

また、管轄救急隊が出場中の第２救急事案でも、次に近い署所の救急車を出場させることができるため、同様に現場到着時間の短縮に繋がっています。

走行時間の短縮が図れた地区の一例

第1出場で救急出場した場合　　単位(分:秒)

地区名	広域化前		広域化後	効果
大東市大字龍間	6:29	→	2:48	3:41 の短縮
大東市北楠の里町	3:27	→	1:33	1:54 の短縮
大東市北新町	3:11	→	1:32	1:39 の短縮
大東市深野北五丁目	3:35	→	2:44	0:51 の短縮

管轄救急隊が出場中に、他隊が救急出場した場合

地区名	広域化前		広域化後	効果
四條畷市二丁通町	6:52	→	4:37	2:15 の短縮
四條畷市南野一丁目	4:44	→	2:32	2:12 の短縮
四條畷市雁屋南町	6:18	→	4:11	2:07 の短縮
四條畷市美田町	6:06	→	4:27	1:39 の短縮

※広域化前の四條畷市では、田原分署の救急隊が第２救急事案に対応していた。

④ 中高層建物への対応強化

四條畷市の中高層建物火災等への対応が可能となり、また、広域化後に新規導入した高所作業車は、コンパクトな車両であり、はしご車が進入できない道路でも通行できるため、両車を特性に合わせて活用することで、災害現場における活動の選択肢が増え、中高層建物への対応力が強化できました。

《大東署、四條畷署合同による実戦訓練の様子》